

令和5年度第1回龍ヶ崎市文化財保護審議会 会 議 次 第

令和5年1月15日（月）午後2時から
龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 会長／副会長選出

5 会長あいさつ

6 議 事

- ・議案第1号 龍ヶ崎市指定文化財の指定について
(候補物件：鉄剣・短剣・ガラス小玉（長峰古墳群第39号墳）)

7 報 告

- ・報告第1号 旧竹内農場赤レンガ西洋館について

8 閉 会

鉄剣



鉄剣



短劍



短劍



ガラス小玉



鉄剣ガラス小玉



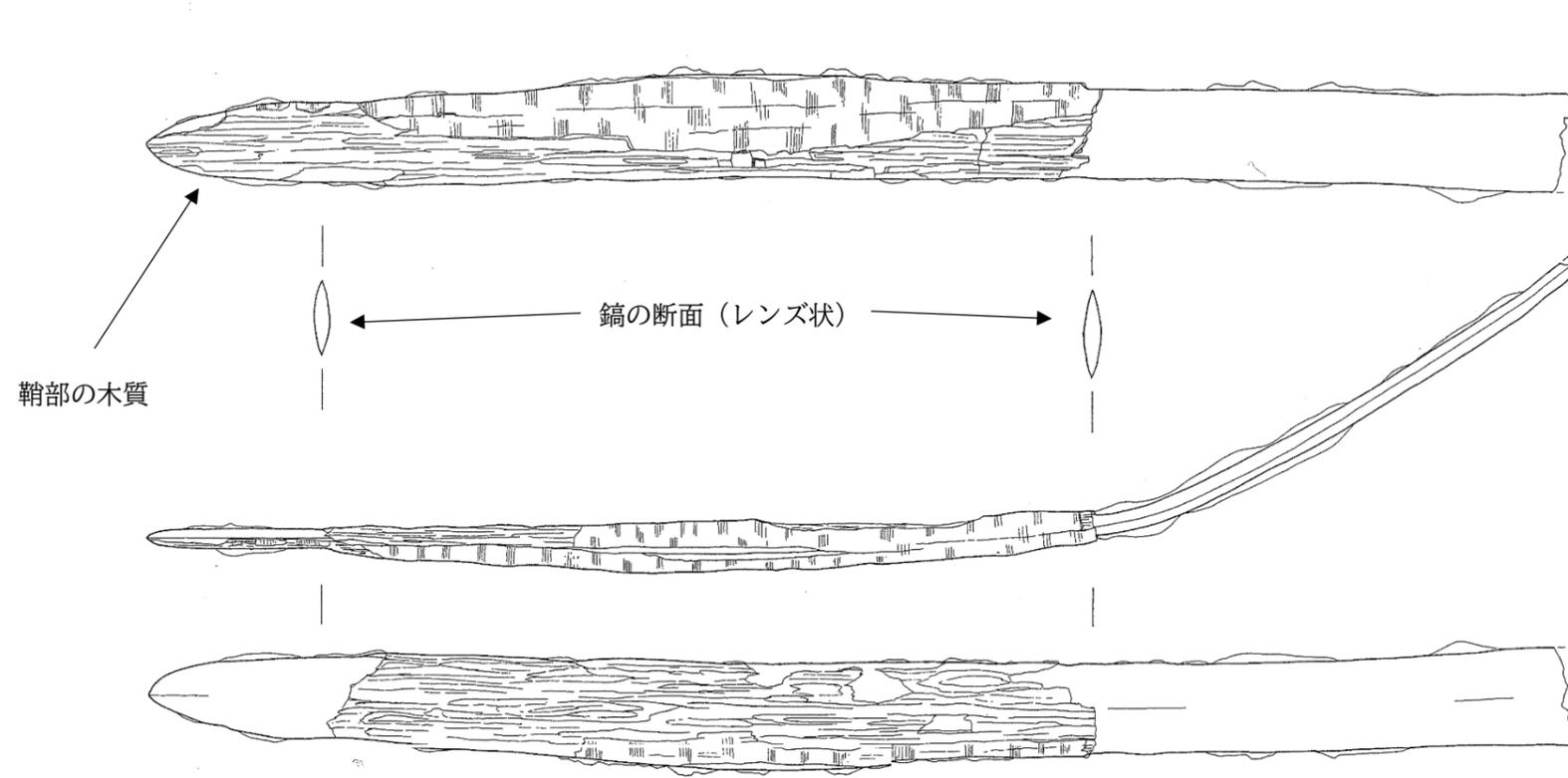


図1 鉄剣(M24)

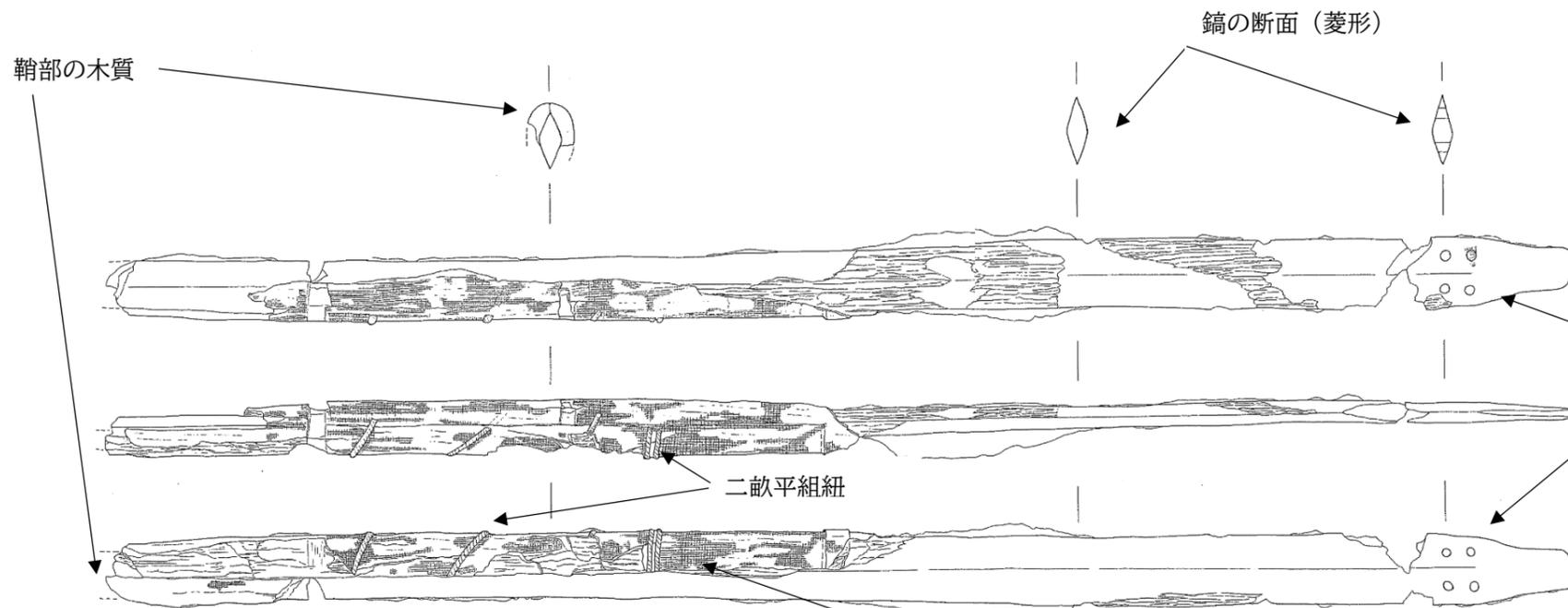


図2 鉄剣(M25)

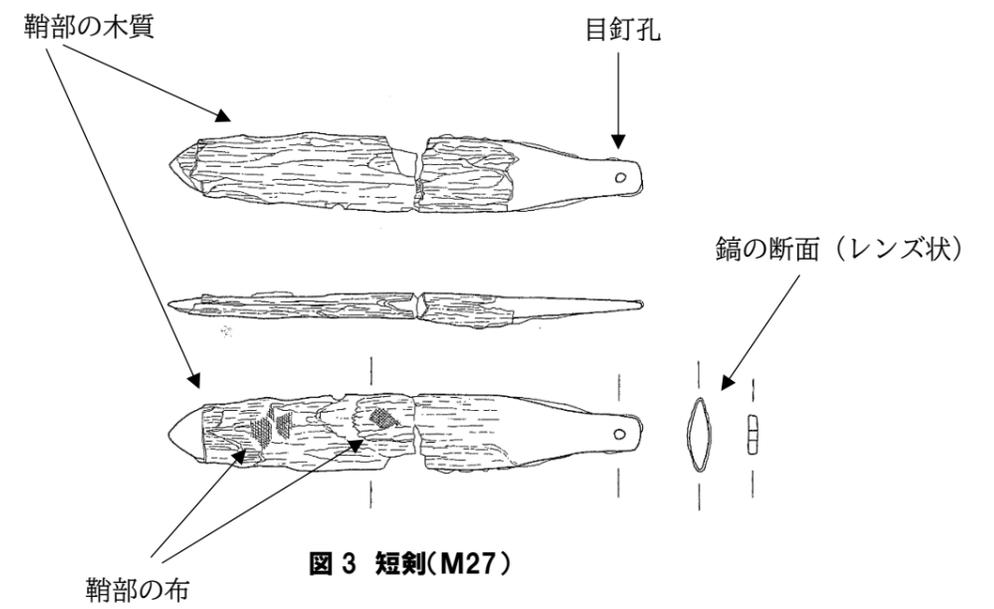


図3 短剣(M27)

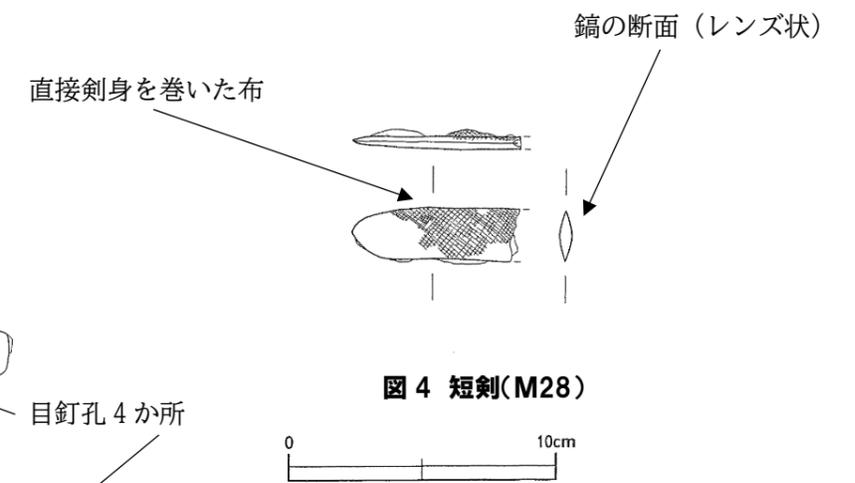


図4 短剣(M28)

※註 『長峰の報告書』「第39号墳埋葬施設出土遺物
実測図(1)に加筆した。

鉄剣・短剣・ガラス小玉（長峰古墳群第39号墳）【概要】

種 別：歴史資料
所 在 地：龍ヶ崎市馴馬町 2488 番地
管 理 者：龍ヶ崎市

鉄剣 2 口・短剣 2 口・ガラス小玉 56 点は、平成 12 年（2000）6 月から財団法人茨城県教育財団が発掘調査を実施した長峰古墳群第 39 号墳から出土したものである。

古墳は後世の改変を受け墳形や規模は不明で埋蔵施設の大半が破壊されていたが、発掘調査の結果、副葬品として銅鏡・鉄剣・ガラス小玉などが出土している。

銅鏡は、白銅質の内行花文鏡^{ないこう かもんきょう}で、県内では石岡市丸山 1 号墳、大洗町鏡塚古墳に続いて 3 例目で、舶載鏡の場合は県内で水戸市天神山古墳に続いて 2 例目となり、既に平成 19 年（2007）年 2 月 28 日付で市指定文化財として認定している。

長峰第 39 号墳は出土遺物から古墳時代前期と確認され、銅鏡・鉄剣・ガラス小玉と、まさしく神話にでてくるような 3 種の宝器がそろった副葬品の出土例は少なく、茨城県南部の同時代を知る上で貴重な資料となっている。

以下、“茨城県教育財団「龍ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 22 長峰城跡（長峰遺跡・長峰古墳群）」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第 184 集 2002 年（以下、『報告書』という。）に記載の遺物番号を用いて、特徴を抜粋した。

（1）鉄剣（M24・図 1）

全長：55.1 cm、刀身長：(55.1 cm)、身幅：3.3 cm、重量：397.1g

鍔^{しのぎ}が不明瞭で断面がレンズ状、鞘部の木質が残存

（2）鉄剣（M25・図 2）

全長：58.3 cm、刀身長：(54.8 cm)、身幅：2.8 cm、茎長：3.5 cm、重量：389.8g

鍔^{しのぎ}が明瞭で断面菱形、目釘孔^{めくぎあな}4、ガラス玉が 2 個鑄着

鞘部の木質が残存し、布を組紐で巻いており、剣の拵^{こしらえ}（外装のこと）か、或いは布製の袋に入れて副葬したものと考えられる。

また、この鉄剣に付着している繊維については、『報告書』の附章「茨城県龍ヶ崎市長峰第 39 号墳出土の繊維について」に平織の布と二畝平組紐が報告されている。

（3）短剣（M27・図 3）

全長：17.3 cm、刀身長：12.5 cm、身幅：2.6 cm、茎長：4.8 cm、重量：54.6g

鍔^{しのぎ}が不明瞭で、目釘孔^{めくぎあな}1 鞘部の木質と布が付着

(4) 短剣 (M28・図4)

全長：6.2 cm、刀身長：(6.2 cm)、身幅：1.8 cm、重量：11.3g
鞘はなく、鎧が不明瞭で直接剣身を布で巻いている。

(5) ガラス小玉 (Q29～Q84・図5)

このうち、Q58 と Q61 は破損しているため展示しない。

【参考文献】

- ・茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 22 長峰城跡（長峰遺跡・長峰古墳群）」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第 184 集 2002 年

